

テーマ	市民からの主なご意見	現時点での議会の考え方
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに地域を守る意識や郷土愛を醸成する教育もお願いしたい。 コミュニティ・スクールや小中一貫教育、キッズ・ウィークなどについて、市の検討をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育は、地方創生においても重要な柱です。国の予算に頼るだけでなく、市が主体となり具体的な取り組みを早急に進めるべきと考えます。

■産業建設委員会

テーマ	市民からの主なご意見	現時点での議会の考え方
観光	<ul style="list-style-type: none"> 管理人のいない民泊が増えている。市は実情を捉えているのか。 外国人が今は多く来高しているが、国内旅行者のリピーターを増やすことも考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 民泊については、引き続き調査研究を進め、飛騨高山ブランドイメージ低下への懸念や、市民の安心安全、地場産業の振興等の視点からも提言に向け取り組みます。 国内旅行者のリピーターを増やすことは重要な視点であると捉えており、特定の年齢層の入込減少や、リピーター率の低下への対策は将来にわたり、観光の持続性を向上させる意味においても注力すべき課題として、より効果的な施策を提案して行けるよう、研究を進めます。
空家	<ul style="list-style-type: none"> 若い人の住むところがない。空家を利用し、若い人が住めるような環境整備を進めることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体となって取り組む姿勢が重要となります。若者の住環境の整備も、既存の市の支援策を活用しながら、UIターン定住に結びついていくよう、より効果的な施策を研究します。 市は平成30年3月までに「空家等対策計画」を策定する予定ですが、活用に対して、また、所有者によって様々な意向があり、細やかなメニューは、民間の意識向上と協力体制が不可欠であると考えます。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> のらマイカーの運行経路や時刻などについて、改善の検討をお願いしたい。 高齢の独居老人が増えている。バスのない地域で白タクはできないか。 公共交通とデマンドバスの区分けがあり利用し辛い。(乗り換えが必要) 	<ul style="list-style-type: none"> 運行経路などには地域の方々のご意見を反映させるべきと考えています。地域の総意を市に要望していただくと共に、委員会としても市に伝えていきます。 住みやすい地域づくりに移動手段の充実が重要であると捉えています。今後地域の体制整備と共に少量輸送システムを構築していけるよう、促していきます。 事業者との役割分担における線引きとして乗り換えが必要な場合がありますが、より快適な利用に向けての協議が必要と考えます。
除雪	<ul style="list-style-type: none"> 私道であっても除雪するといった検討に取り組むべき。 除雪について、独居高齢者や除雪弱者の方々への対応が急がれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市では、所有者から市道認定の申請があった場合、条件を満たす路線については都度見直しを図っていますが、所有者の意向も様々である事から、それに応じた見直しが必要と考えます。 独居高齢者等への対応について、市は現在、各町内会やまち協からの情報提供に対し、できる限りの対応はしているとの事ですが、地域間の共助体制の充実と共に、本質的な課題解決に取り組むことが必要と考えます。
人材不足	<ul style="list-style-type: none"> 人材や人手が足りない。滞在型観光客の人材確保の件でパートの生活環境整備をしっかりとしないと地域がダメになる。地方にも補助を。 高山に戻っても勤める企業が少ないので、職種を増やすめにも大企業なども誘致し、若者に魅力ある企業誘致に取り組んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会と向き合いながら、生産性の向上と実質賃金の増加に結び付けて行く事が必要ですが、行政も人材不足の本質に対し、地道な努力と、先進的な施策との両輪での取り組みが必要となると考えます。 若者のUターン率の向上や、移住者の定住等に対する様々な支援策をより活用しやすく整理し、成果に至るよう、注力していきます。域外からの労働力についても、県や市の支援策、法整備の両面で、地域産業の発展や地域の持続の為に調査研究が必要と考えます。地域性や発展分野の開拓も見据え、今後も調査研究していきます。

■ 市政全般にわたりいただいた多くのご意見について、上記のように委員会として取り組むもののほか、内容により市の担当部局に伝え対応を求めています。